



2018年11月1日

銀行の存在意義

公益財団法人 国際通貨研究所
理事長 渡辺博史

多分このメルマガを読まれている方の多くからは、「おいおい何を言っているんだい！！」と非難を受けそうだが、実態の変化は我々の理解が追い付くかどうかに関わらず、極めて速やかに進行している。

少し遡れば、ビル・ゲイツが「Banking is necessary. But banks are not.」と、金融は必要だが、それを担うといっている銀行自体が必要かどうかは別だ、と言っている。必要かどうかは別だが、「要らない」と明言している訳では無いという解釈もあるが、最近聞いたアメリカの状況は強烈なものであった。

26歳以下の若者に「銀行あるいは類似の金融機関に口座を持っているか？そもそも銀行に行ったことがあるか？」と質問したところ、80%超の回答が「口座は持っていない。銀行の店舗に自分の用事で行くこともない。」というものであった。

もちろん、銀行の店舗に行かなくても通信手段の高度化を通じて銀行のサービスを受けることも可能になってきているので、店舗に行くかどうかは根本的な話ではないが、預金を持つとは思わない、送金も口座も窓口も使わないで完結する、という状況に今やなりつつあるとすれば、銀行及びその類似の金融機関にとっては、低金利下での収益がどうのこうの、という段階ではない、という警告となる。人口が減っていく、という推計を前提にすれば、絶対数が減ることは当然に想定されているが、その減った人数の中での金融機関と関係を有する意向を持つ人数は更に大幅に減って行くことになる。

今後の動きとして、若者が、

- ① 資産の運用という面で、預金類似の金融手段、商品を使おうと思うかどうか？暗号資産に行くかどうかは別にして、債券などの資産と預金をどう比較評価するか？
- ② 資金調達面において、銀行以外の貸し手が低いコスト、簡便な手続き、簡易なあるいは無担保での貸し出しをするようになり、かつそれに頼ろうとするか？特に教育ローン、消費者ローン更には数千万円水準の住宅ローンなどの金額では、そういう資金提供のオファーは出て来ようが、その利便との比較をどう考えるか？
- ③ そして基本サービスとしての決済、為替、送金の面において、銀行ネットワーク

を使うことなく処理を完結させようとするか？あるいは、そういう方向でのサービス・オファー自体が不可避免的に増えて行くのをどう受け止めるか？

といった各面でどんな選択をするかが動向を左右する要因となるが、現在の進行状況に鑑みれば、いずれの面でも銀行に若者を呼び込む誘因は乏しくなる。

日本の場合、小切手利用は普及しなかったが、自動引き落としで口座を使うという形では、銀行の預金口座は公共料金他の決済の効率化に貢献してきたが、固定電話、据え置きテレビの数が大きく減少していくのと歩調を合わせて、今後自動引き落とし自体が不要になっていく方向にある。

また、賃金の支払いが銀行への振り込みを含む「現金」に限られなくなる法改正が進められていることも、アプリ上での支給処理で完結する場合が増え、銀行が関与する余地は少なくなっていく。

上記の②の類型としての資金調達的面においては、特に相当大きい金額の場合あるいはベンチャー・ファイナンスの局面では、まだ銀行及び類似金融機関の存在意義は残る（とは言っても、資金供給者というよりは、プロジェクト遂行へのサポート者という点でコンサルタント会社などとの競合は一層厳しくなっていこう）とは思いますが、多くの「普通の」若者の話ではない。

以上

(IIMA メールマガジンへの寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいませよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2018 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokucho 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話：03-3245-6934（代）ファックス：03-3231-5422

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>